



2013/8/12

アド・イタリア・ニュース

編集・発行：アド・イタリア

politica

Inedita larga intesa  
対立から連立へ

「ここに戻るつもりはなかった。再選は避けられた」 4月22日、総選挙後の混乱を收拾するために再登板を余儀なくされたジョルジョ・ナポリターノ大統領は就任式の冒頭、言葉を詰まらせた。

7年間の任期を終えて引退するはずだったが、新大統領は5回の投票を経て決まらず、各派からの申し入れに応じて、「国への責任を果たす」ために立候補を受諾。過半数を大幅に上回る得票で再選された。

「総選挙を制した者はだれもいない。許しがたいのは、これまで選挙法改正に取り組みなかったあなた方だ。結果を受け止め、責任ある行動をとってほしい.....この20年間、各党派は協力や歩み寄りを拒み、不毛ないがみ合いで政治の荒廃をもたらした。私が引き受けたのは統治不能な政府を見るためではない.....今すぐ、イタリアが必要としていることをあなた達が成しえないのなら、私はこの場を去る」と訴え、その熱い言葉に「罪人たち」は拍手を送った。

今後も「国が必要とする限り、体力が許す限り」職務を全うするという大統領は、ナポリ生まれの88歳。戦後共産党に加わり、両院議員、内相、EU議員を歴任してきた生粋の政治家である。満場の拍手に対しても、「それで償ったと思わないように！」と釘をさした。

総選挙後の政治的空白の要因の一つとして挙げられるのが、喜劇役者ベッペ・グリッポ率いる新勢力、5つ星運動の大躍進である。経済の退潮による社会不安や政治不信を背景に、既成政党、体制、官僚に対抗する市民革命をブログと広場で謳いあげ、無党派層や左右両派に見切りをつけた有権者の支持を取りこんだ。下院では最大の単独得票を獲得したが、連合としてそれを4ポイント上回った中道左派が、最大得票率の党派に割り当てられる340議席(下院定数630議席の54%)を得て与党となった。

一方、このような割り当て制度のない上院では3勢力(中道左右両派と5つ星運動)が拮抗し、政権発足に必要な内閣の信任が見込めなかったために、政局は膠着状態に陥っていた。

ナポリターノ大統領は再選後すぐに各派と協議し、翌々日にはPD(民主党)副書記長エンリーコ・レッタ氏を首相に指名。連立政権の組閣を促した。1966年ピサ生まれのレッタ氏は30代から閣僚を務めてきた穏健派で、優れた分析家としての評価も高い。

総選挙から2ヶ月が過ぎた4月27日、各派から幅広く若手実力派と専門家を起用した21名(内1/3は女性)からなる異例の大連立内閣が誕生した。

戦後最大といわれる不況の中、雇用問題、経済活性化、税制、選挙法改正への積極的な取り組みが期待されている。

società



Foto di Riccardo (da Cagliari, Sardegna)

春から夏にかけて雷や竜巻など不順な天候がつづき、ツバメも遅れてやってきた今年のイタリア。晴天がもどった8月には、「草原でのんびり過ごす」、「田舎に行く」、「ヨットクラブの合宿に参加する(高校生)」と、楽しみかたはそれぞれだが、多くの人たちが都会を離れて山や海辺へと出発した。

古くて新しい仕事

内需の不振や重い税負担などで多くの企業が苦境にある中、このような時代だからこそ、新しい仕事を創りだそうという気運が高まっている。建具屋、仕立屋、パン工房といった南イタリアで古くから盛んな職人仕事も自治体が積極的に支援し、若者や女性が起業する場合には無利子で融資が受けられる。たとえば、プーリア州アルタムーラのパン(「DOP 保護原産地呼称」指定)もこうした支援の対象で、地元産デュラムセモリナ粉を原料に石窯で薪を使って焼くその金色のパンは、日持ちがいいので全国的な人気を集めている。

南イタリアから原料のデュラムセモリナ粉を列車で取り寄せ、100%イタリア産のパスタを世界に送りだしている北部の企業もある。毎週、貨車16台に乗せられた良質なセモリナ粉が、工場に届く。工場ではコージェネレーション・システムや太陽光エネルギーをフルに活用。玉子入りパスタには放し飼いの鶏の卵だけを使う。先代はキャンプ用キッチンを携えて世界を巡り、目の前で調理して味わってもらうことで市場を拓けた。

花卉栽培の盛んなトスカナ州ピストイア。アルノ川の支流オンブローネの谷沿いでは、250種類の鉢植え植物を育て、世界50ヶ国に輸出している。アラブ諸国のホテルの庭園を飾るシュロの木の多くも、じつはピストイア産。周辺に生えているシュロを移植するよりも、鉢植えのほうが土壌なじみやすく、丈夫に育つのだという。

ピストイアの東、山間の地ムジェッロでは、中学生たちが体育館裏の100㎡の農園で野菜や果物を栽培している。農業科の高校生の助けを借りながら、種蒔きをしたり、果樹の挿し木をつくったり、かなり本格的な農作業。この夏は、トマトやズッキーニがよく採れた。植物にちなんだ詩の朗読会や演劇会も開かれる。

農業はイタリアで唯一雇用を伸ばしている産業部門(+4%)。地域性を切り札に今後の貴重な成長産業と見なされている。



economia

1ユーロ/128.75円(8/12)

不況知らず、プラダの躍進

EU経済の低迷がつづくなか、一人気を吐く絶好調のイタリア・ブランド、プラダ。その収益は前年比29%増の32億9720万ユーロ、純利益は44.9%増の6億2570万ユーロを記録した。2011年に香港の株式市場上場以後も、快進撃がつづいている。「高い収益構造と安定した資産構成のもとで、我々はさらなる投資を行う予定です」と、グループ総帥のパトリツィオ・ベルテッリ CEO は強気の構えを崩さない。Prada や Miu Miu といったブランドの地域別の伸び率を見ると、ヨーロッパでは+28.6%、アジア太平洋地域では+32.9%、アメリカでは23.3%、日本は+14.2%を記録した。特にめざましいのが皮革製品部門で前年比42.7%の増加、アパレル部門が9.9%増、フットウェア部門が11.7%増でこれに続いた。

汚染度センサー付自転車、実現間近

大気汚染度はどの位? 光化学スモッグの発生状況は? 教えてくれるのは、自転車のペダル。



このほどフィレンツェのCNR(イタリア学術研究会議)が、フィレンツェ貯蓄銀行とフィレンツェ大学の共同出資により、「ウェブ・センサー・バイク」と名付けた自転車を開発したことを発表した。ニューヨークの自転車便業者が実際に使用しているモデルをもとに試作されたプロトタイプは製作費は意外と低く、1000ユーロ。もちろん、このセンサー・バイクの量産化が実現すれば、価格は大きく下がるだろう。CNR はすでにトスカナ州の企業の自転車メーカーとの交渉を進めている。

プロジェクトリーダーのアレッサンドロ・ザルデイによれば、後ろの荷台に、気温、湿度、二酸化炭素量、オゾン量を測定するセンサーを搭載した小さなボックスが取り付けられる。将来はPM2.5も検出可能とのこと。これらのデータは、モデムを介してリアルタイムでオープンソースプラットフォーム「Arduino」に送られる。そして、処理されたデータ情報は、携帯電話から無料で取得できるという仕組み。いわば自転車を利用する市民一人一人が、エコシステムのデータマン兼監視者になるわけだ。ザルデイは、今後はこのセンサーシステムの搭載をバス、タクシー、さらには腕時計にまで広げて、広範かつ精緻な大気汚染管理ネットワークを作り上げたいと抱負を語る。